

クラス	TU306	担当教員	小坂啓史
テーマ	教育・保育・福祉の社会学 —— 社会学的想像力と社会学的思考を駆使して ——		
著書・論文	【近年の研究課題】社会学教育、エスノメソドロジエ的映像分析、映画社会学 2018/03 「フィクション映画を用いた演習による社会学的思考の醸成についての考察」(論文)		
研究課題等	2018/02 「イデオロギー装置としての福祉国家」(論文) 2017/07 「中学校教育における社会学教育の位置づけについて」(論文) 2017/03 「<ケア関係>の形成についての相互行為分析」(論文)		

ゼミナール概要

キーワード：社会学的想像力、社会学的思考、教育社会学、子ども社会学

《内容・方法について》

(1) 社会学的な発想と考え方を身につけよう

このゼミではまず社会学的想像力（ミルズ）を身につけていくことを目標とします。

社会学的想像力とは、時代や社会の状況や大きな動きと、私たちのふるまい、他人との関係、日常の生活など身近な物事とが、どのように結びつき、関わっているのかを想像し考えていくことです。

今の社会では、この社会学的想像力がとくに重要なものになってきていると思われます。それは、私たち自身の個人的な不安感、悩み、「生きにくさ」といったものと、社会のしくみそのものとが、これまでよりもさらに直接的に、深く結びつきつつあるからです。

(2) 教育、保育、社会福祉の分野への社会学的アプローチ

つぎに、社会学におけるさまざまな社会のとらえ方について学び、考えていきましょう。その上で、それらの見方、方法から、教員と生徒、保育者と子どもたちといった関係や、それらをとりまく教室空間という場、あるいは制度・政策などとのつながりについて、みていきましょう。そこでは、これまでイメージしてきたものは全く異なった世界が浮かび上がるかもしれません（映画や映像資料などを用いる場合もあります）。

(3) 社会学的研究方法を学ぼう

そして、社会学の研究方法について、改めて学んでいきます。論文を書くためには、問題関心、研究テーマのブラッシュ・アップのしかたや、それをどのように分析、研究したらよいかのかが分かっている必要がありますね。そうしたことについても、きちんとおさえていきましょう。卒論のテーマについては、社会現象であればどんなことでもOKです。なるべく早めに、自分が追求したいテーマを見つけて、着手していきましょう。

《ゼミの進め方など》

進め方は基本的にゼミナール形式です。共通の文献や論文を取り上げて、報告と話し合いをしていくことがメインになります。また、映画ゼミ（テーマとなる映画作品を鑑賞、社会学的分析を行っていくゼミ）や、論理的な考え方や書き方について練習するサブゼミを行う場合もあります。さらに、3年生（予定）の夏休み期間に、関東地方の他大学のゼミと共同で合同ゼミ合宿を、あるいはゼミ単独での合宿を行う予定です。これへの参加を前提に、エントリーをしてください。

担当教員からのメッセージ

ゼミでは使わないでほしい言葉があります。それは、「わかりません」「同じです」です（これらのバリエーションも）。わからないことがあれば、きちんと提起をして、みんなで話し合って考えていけばよいのですし、また、意見が他の人と同じでも、きちんと自分の言葉で述べるのが大事です。

もう一つ、気をつけてほしいことがあります。それは、意見を単純化させすぎることです（「(どうせ) ~にすぎない」といった言いまわし）。社会で起こるさまざまな現象は、「~にすぎない」など、一言で答えられるほど単純なしくみで現れるわけではありません。また、この意味での単純化は、よくない意味での「シニカルさ」につながり、結局何も考えないことになってしまう恐れもあると思われます。

わからないことや知らないことがあるのは、別に恥ずかしいことではありません。集中しつつもリラックスして、ゼミに臨んでください。そのための環境づくりには、十二分に配慮していくつもりです。

